



松本山雅FCと盛り上げるわたしたちの松本市

—「社会」と「わたし」を結ぶ探究的な学びを通して—

信州大学教育学部附属松本小学校（現：長谷中学校）北澤 亮介

© 2011 YAMAGA FC All Rights Reserved.

実践の概要

本実践は、松本山雅FCを中核に据え、子どもが「社会」と「わたし」を結び付けて考える探究的な学習に年間を通して取り組んだものである。地域の誇りであるクラブを軸に、多様な人や組織と関わる学びを構想し、教室を越えて本物の社会と出会うことで、地域を自分ごととして捉えることを目指した。総合的な学習の時間を中心に教科横断的に展開し、地域資源を活用した協働的な学びを通して、主体的に課題解決に関わる力の育成を図った。さらに、地域とのつながりを実感することで、子どもの有用感や地域への愛着、主体性の芽生えを促すのではないかと考えた。

学びのストーリー



かりがねサッカー場にて
選手と出会う



ガチャさん来校
松本山雅FCって？



山雅と育てる大豆
「あやみどり」SDGs



会社が山雅を応援す
るってどういうこと？



第一スポンサー
EPSON



試合に行きたい！
聖地アルウィン



山雅ドリームビジョン？
小澤社長来校



老舗が守る松本の味
マサムラ



売り上げ1兆円超え
松本の富士電機



松本の交通を支える
ALPICO



選手を支える
てまりバス



選手専用バスで
校外学習へ



雷鳥は頂を目指す？
大町山岳博物館



選手と一緒に
コラボ弁当開発！



巖と正太郎の
W肉盛り丼



1時間で150食売



お弁当の販売へ！
長野Uスタジアム



Jリーグを支える
明治安田生命



自分たちのお金でアル
ウィンへ 長野銀行



ウルトラマツモト来校
応援を覚えたい！

振り返り

いちばん心にのこっているのは、喫茶山雅とつながって、クラスみんなでお弁当を売ったことです。どうしたら買ってもらえるかを考えて、みんなで声をかけました。お弁当がぜんぶ売り切れたときは、本当にうれしくて、がんばってよかったなと思いました。今、山雅といっしょにべんきょうしてみても、子どものためにいろいろな活動をしているところがすごいなと思いました。前は、山雅が負けてもあまり気にしていませんでしたが、今は負けたとしてもかやしい気持ちになります。ずっと負けていたときは、どこかひとごとのような感じだったので、いっぱい応援してもらったり、つながったりしたから、くやしくなりました。もともと松本市は好きだったけれど、山雅をとおして前よりもっと松本市が好きになりました。



成果と課題

- ◇松本山雅FCを中核に据えたことで、地域社会を知識としてではなく、自分の生活や思いと結び付いた身近な存在として捉えられるようになった。また、多様な立場の人との出会いや体験を通して、地域が人々の思いや働きによって支えられていることを実感した。
- ◇総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメントにより、教科横断的な探究を継続できた。子どもの思い、問いを軸に学びが続き、関心を深めながら「まちの一員として生きる」感覚の形成につながった。
- ◇課題として、金銭面の難しさ・発達段階によるクラブの理解・量的研究の不足が挙げられる。